

2024年度

1月通常総会資料



一般社団法人田村青年会議所

目 次

■ 2023年度事業報告	
・ 2023年度 理事長活動報告	2、3
・ 2023年度 副理事長活動報告	4、5
・ 2023年度 委員長活動報告	6～8
・ 2023年度 会務報告	9～12
・ 2023年度 庶務報告	13～16
・ 2023年度 定例会出欠報告	17
・ 2023年度 理事会出欠報告	18
・ 2023年度 出向者報告	19～23
・ 2023年度 監事報告	24
■ 2023年度決算報告	
・ 2023年度 収支決算書	25
・ 正味財産増減計算書・貸借対照表・財産目録	26
・ 監査報告書	27
■ 2024年度事業計画	
・ 2024年度 理事長所信	28～32
・ 2024年度 基本理念・基本計画・職務分掌	33～36
・ 2024年度 副理事長所信	37～39
（ひとづくり委員会・愛郷まちづくり委員会・総務委員会）	
・ 2024年度 委員会事業計画	40～45
（ひとづくり委員会・愛郷まちづくり委員会・総務委員会）	
・ 2024年度 組織図	46
・ 2024年度 出向者	47
・ 2024年度 会員・四役・理事	48～50
■ 2024年度収支予算書	
・ 収支予算書	51

【一般社団法人田村青年会議所 2023年度 理事長活動報告】

「スローガン」

幸福追求

～多様性と開放性を持って夢を描こう～

一般社団法人田村青年会議所 第42代理事長 勝山 修二

新型コロナウイルスが猛威を振るい始めてから数年が経ち、地域に住み暮らす人々から笑顔が少なくなったように感じていました。本年、理事長の職を預かるにあたり、この地域に何を恩返しできるか考え、この地域に住み暮らす人々が少しでも多くの夢を持ち、幸せを感じる事ができる地域へとするべく、先ずは私たちからこの地域に多くの夢を持ち、「幸福追求～多様性と開放性を持って夢を描こう～」をスローガンに掲げさせていただき、1年間この地域に住み暮らす人々が少しでも多くの幸せを感じれるよう、邁進してまいりました。

今年の5月から新型コロナも第5類に移行され、様々な制限が緩和されて今までできなかった事の反動が激しいと言っていいほど再開されました。来年開催のブロック大会の田村開催に向け3か年計画で昨年からはじめた「たむら愛郷祭」の開催は小野町と、地域に現会員がいない中での開催となりましたが、行政はじめ、他団体・企業・生産者・飲食店さんなど多くの方と一丸となった事業開催となりました。次年度ブロック大会の愛郷祭開催に向け、しっかりとバトンを繋ぐことができたと考えています。

また磐越東線では赤字路線が公表され廃線の危機を迎えていることを踏まえ、私たちにも何かできる事はないかと、利用促進や魅力発信を促しました。簡単に利用が増える訳もなく、歯痒い思いのまま今年度が終わってしまいましたが、今年の気づきを次年度以降の取り組みに繋げて欲しいと願います。

他団体との交流を深め、密に連絡を取ることで、地域の方々に私たちの団体の存在や在り方を知ってもらう事業、組織としての在り方、自身がどのようにJCと向き合えばいいのか考える時間を持ちました。また友好JCであるJCI青森との交流も今まで以上に密になり、新たにJCI一関、JCIあぶくまとも交流を深め、一関市の多くの子どもたちに姉妹都市である三春町に足を運んでいただき、歴史を知ってもらう機会をつくり、また私たちも一関市に足を運び「二代目時の太鼓大巡行」に参加させていただくなど、多くの交流の機会を得ることができました。

今年は京都会議から始まり、全国大会までほぼ全てフルスペックでの開催でした。1年を通して理事長の席がある場面にはできる限り参加してきました。その中で改めて成長の機会を得たこと、多くの学びを得ることができました。素晴らしい経験をすることができました。背中を押してくれた家族、会社の仲間、同じ志を持つメンバーに感謝します。そし

てこの怒涛の 1 年間、勝山丸に乗り込んでくれた副理事長をはじめ専務理事、役員、メンバーの皆様、本当にありがとうございました。

ラストイヤーで理事長を務め、1年居残りでのボーナスイヤー。今までお世話になった田村青年会議所に、この地域に少しでも恩返しができればと思っています。ありがとうございました。

【一般社団法人田村青年会議所 2023年度 副理事長活動報告】

副理事長 橋本 隆亮

(担当委員会：愛郷まちづくり委員会)

当委員会の年間活動については玄葉委員長にお任せするとして、ここでは担当副理事長としての反省点を中心にご報告します。

当委員会は5月に『SNS活用セミナー』を開催し、磐越東線の魅力発信のための1つの手法として、SNSの活用方法について講師からご講義をいただき、参加メンバーには実際に動画作成を実践していただきました。本来であれば、そこで学んだことを生かし、来る11月担当事業である『経営デザインシートを用いて磐越東線の魅力を考える』において磐越東線の魅力を集約し、それを基に、自分たちでオリジナルの動画を作成して発信すべきでした。しかし、不特定多数の閲覧者に磐越東線の魅力を十分に発信するだけの動画スキルを身に着けるまでには至らず、また年間計画にも至らぬ部分があり、動画作成は外部の制作会社に委託する結果となりました。副理事長として、次年度段階から年間スケジュールを明確にシミュレーションできなかつたことが原因の1つと反省しております。

今年は2年目の副理事長を仰せつかりましたが、これまでの経験に基づく適切はアドバイスができたかというところ自信がなく、玄葉委員長はじめ委員会メンバーをうまく牽引できなかった部分があったと痛感しております。次年度副理事長を務められるメンバーにおかれては、その立ち位置に迷う部分もあるかと思いますが、委員長や副委員長と十分な議論を尽くし、できるだけ早期に1年間の明確なビジョンを確立していただければと思います。また、そのためには理事長の所信を正確に読み解くとともに、その想いを正面から受け止めるなど、理事長との意思疎通も十分に行うべきです。

本年度愛郷まちづくり委員会は、家族がいるため夜は集まりにくいというメンバー共通の事情があったことから、当LOMでは珍しい昼開催（ランチミーティング）としました。そのおかげもあって委員会は毎回高い出席率を誇り、また仕事の疲れが出始める夕方よりも、体力が有り余っている昼間に開催した方が参加意欲が高いためか、議論も活発になったのではないかと思います。メンバー1人ひとりの意識が高く、毎回充実した委員会になりました。玄葉委員長をはじめ委員会のメンバーには、卒業の年に楽しい時間を共有できたことを心から感謝申し上げます。1年間誠に有難うございました。

副理事長 村田 将一
(担当委員会：ひとづくり委員会)

2023年度ひとづくり委員会の担当副理事長を務めさせていただきました。「地域の輪を拡げるひとづくり」をスローガンに会員拡大に関する事業や地域住民との交流事業を行ってまいりました。

事業として行なった親子ディスクゴルフ大会はとて多くの方に参加いただき親子のコミュニケーションを向上させることはもちろん田村青年会議所としても多くの発見があった事業になったと思います。

人数が少ないながらも村上委員長が委員会メンバーに青年会議所とはどのような所なのか、どのように事業を構築していくか丁寧に説明しながら委員会を運営していたからこそ苦難を乗り越え最後までやり遂げることができたのだと思います。

村上委員長、委員会メンバーの皆さん一年間お疲れ様でした。

【一般社団法人田村青年会議所 2023年度 委員長活動報告】

担当委員会：愛郷まちづくり委員会 委員長 玄葉 俊行

2023年度愛郷まちづくり委員会では、「butterfly effect」をスローガンに地域のリーダーを目指す私たちJCメンバーが先頭に立ちこの地域のきずなを深める運動を行って参りました。

2月には公益社団法人日本青年会議所地域グループ社会課題解決委員会委員長高畠祐介君を講師に招き、「ソーシャルビジネスセミナー」を実施しました。この地域に住み暮らす人たちが、地域の課題解決への意識が高まることで、「誰かがやってくれるから」ではなく、一緒にやりたいと思う人たちを増やすことができ、同じ想いを持った住民の方々が增多することで、一丸となったまちづくりを目指す第一歩となりました。5月には小野町地域おこし協力隊の山田淳輝氏を招き『SNS「活用」セミナー』を開催しました。田村青年会議所の活動の発信やそれぞれのメンバーの社業等でのSNS推進により、より多くの方が地域の良さに気づくことができ、一人ひとりの主体的な行動で地域の魅力を拡げることで、幸福な田村圏創造につながりました。7月には2024年度福島ブロック大会に向けて会場の魅力を改めて体感し、その魅力を他LOMメンバーへ伝えることを目的に「2024年度ブロック大会会場視察及びバーベキュー親睦会」を開催しました。例会より家族例会とすることでJC活動と家族との時間を確保することができ、ご家族の方のJCへの理解を深めることができました。11月には株式会社知的利益代表取締役社長鈴木健治氏を招き、「経営デザインシート活用セミナー」を実施しました。経営デザインシートを用いながら磐越東線の魅力を個人ワーク、グループワークを経てメンバー間で意見を出し合うことで改めて磐越東線の魅力を発見することができました。さらに、その内容を田村青年会議所公式Instagram、たむら愛郷祭Instagram内で動画を公開し、福島県内外へ発信しました。

一年間を通し、田村圏の魅力や課題はどこにあるのかをメンバーや地域の方々と意見交換をしながら事業を実施することができました。担当副理事長の橋本隆亮君を始め、委員会メンバーから多大なるお力添えがなければ成しえることはできませんでした。多くの方に支えられながら素晴らしい経験をさせていただいたことに感謝しております。次年度は副理事長の担いをお預かりしました。今年度の経験をさらにLOMに還元できるよう邁進いたします。

頼りない委員長ではありましたが、一年を通しお支えいただいた勝山理事長をはじめとするLOMメンバーの皆様、一年間ありがとうございました。

担当委員会：ひとづくり委員会 委員長 村上 真彦

2023年度ひとづくり委員会では「想いを広げる会員拡大」と「幸福を共有できるひとづくり」をスローガンに年度の前半と後半に分け4つの事業を構築、実施してまいりました。

初めに会員拡大については公益社団法人日本青年会議所 会員拡大委員会の委員長を講師に招き、「集める拡大から集まる拡大へ」をテーマに地域を想う人財を増やすため、メンバー一人ひとりに拡大目的の再認識や拡大に対する意識向上を目的とし、LOMの現状に合わせたセミナーを開催しました。続いて会員拡大セミナーを活かすため、メンバーと会員候補者間でスポーツを交えての異業種交流会を実施しました。青年会議所の活動・運動を理解し、より身近な団体だと感じていただけるよう参加者間で親睦を図るための運動を開催しました。会員拡大運動では多くの候補者を入会まで繋げることは叶いませんでしたが、青年会議所という団体を多くの方に認識していただき、今後の活動や運動に活かせるきっかけを創ることができたと感じます。続いて地域コミュニティの希薄による人々の交流の機会が減少している現状を踏まえ、田村圏内外の方を対象とした親子参加型交流会を実施しました。家庭環境において自身の在り方を振り返るきっかけをつくり、家族間での絆を深めるほか、次世代を担う子どもたちが地域の人々と新たな繋がりを創り出すことや人との繋がりを大切に感じ、地域と触れ合う機会を設けることで、この田村の地域を思い未来を描き成長してくための事業を行いました。多くの参加者を募ることができ私たち青年会議所の活動・運動を地域に伝えることができ大変満足しております。最後に青年会議所メンバー向けの人材育成セミナーを実施し、青年会議所の目的や意義、価値を理解し、次に繋げるという点においては大変役立てることができました。

2年連続で委員長を仰せつかりました。一昨年とは違い、事業計画やスケジュールの立て方、動き方をよく考え、実行できたと感じております。但し、委員長一人だけでは事業立案、実行には至りません。委員会問わず、多くの仲間と話し合い構築していくものだと感じます。LOMの会員数を考えると委員長任せの風習は今後転換していく必要があります。過去の実績や経験を表に出し自慢するのではなく、一人ひとりのメンバーと寄り添い、思いやりや優しさのある活動が必要であると感じました。次年度はそのような副理事長を目指し行動してまいります。

今年度も委員長として任命して下さった勝山理事長をはじめとするメンバーの皆様、一年間本当に有難うございました。

担当委員会：総務委員会 委員長 横田 涼

2023年度総務委員会では、「誰一人取り残されない組織づくり」をスローガンに、①例会や総会を通じた田村青年会議所のビジョンの共有、②会員の自己実現につながる学びの機会提供、③会員同士が幸福を感じ尊重し合えるようなきっかけづくりの3つをベースに事業を展開してまいりました。

1月には、開宝花の湯にて一年間の事業計画や収支予算を決定する「通常総会」を開催しました。

6月には、三春交流館「まほら」にて(株)ペンギンエデュケーション代表取締役の横田智史氏を講師に招き、多様な働き方を学ぶことを目的に「イクボスセミナー」を開催しました。

8月には、迎賓館辰巳屋にて次年度体制の決定の場である「通常総会」を行いました。

12月には、割烹八文字屋にてこれまでお世話になった卒業生を送り出す「卒業式」を行いました。

結果として全ての会員に参加してもらうことは叶いませんでしたが、事業を通じて充実感に伴う「幸福」を感じてもらい、生き生きとした状態で運動できる魅力ある組織づくりを推進することができました。一年間ご協力いただきました皆さまに深く感謝申し上げます。

一般社団法人田村青年会議所 2023年度会務報告

1月	1日	2月	1日	3月	1日
	2日		2日		2日
	3日		3日		3日
	4日		4日		4日
	5日		5日		5日
	6日		6日		6日
	7日		7日		7日
	8日		8日		8日
	9日		9日		9日
	10日		10日		10日
	11日		11日		11日
	12日		12日		12日
	13日		13日		13日
	14日		14日		14日
	15日		15日		15日
	16日		16日		16日
	17日		17日		17日
	18日		18日		18日
	19日		19日		19日
	20日		20日		20日
	21日		21日		21日
	22日		22日		22日
	23日		23日		23日
	24日		24日		24日
	25日		25日		25日
	26日		26日		26日
	27日		27日		27日
	28日		28日		28日
	29日				29日
	30日				30日
	31日				31日

一般社団法人田村青年会議所 2023年度会務報告

4月	1日		5月	1日		6月	1日	
	2日	JCI猪苗代創立45周年記念式典・記念祝辞会		2日			2日	
	3日	第4回総務委員会		3日			3日	JCI一関・あぶくま連携事業 「郷土文化継承・都市間交流推進事業」 愛郷祭第4回実行委員会
	4日	第3回四役会		4日			4日	
	5日			5日			5日	
	6日	第3回委員会議所会議		6日			6日	
	7日			7日			7日	第6回四役会
	8日	第15回さくらの里クリーンアップ作戦		8日	第5回四役会		8日	
	9日			9日	第4回委員会議所会議		9日	
	10日	2023年度会頭公式訪問		10日			10日	
	11日			11日	第5回総務委員会		11日	
	12日			12日	第5回愛郷まちづくり委員会 一関・あぶくまJC打ち合わせ		12日	
	13日	第7回ひとつづくり委員会		13日			13日	
	14日			14日	片曾根山清掃登山		14日	愛郷祭第5回実行委員会 第5回愛郷まちづくり委員会
	15日			15日			15日	第6回総務委員会
	16日			16日	愛郷祭第3回実行委員会		16日	第9回ひとつづくり委員会
	17日	田村市・三春町・小野町ベビーファースト合同宣言		17日	第8回ひとつづくり委員会		17日	
	18日			18日			18日	JCI二本松創立50周年記念式典
	19日	第3回愛郷まちづくり委員会		19日	第5回理事会		19日	
	20日	愛郷祭第2回実行委員会 第4回理事会		20日			20日	6月例会・イクボスセミナー
	21日			21日			21日	
	22日			22日			22日	第6回理事会
	23日	4月例会・異業種交流会		23日	5月例会・SNS活用セミナー		23日	
	24日			24日			24日	
	25日			25日			25日	
	26日			26日			26日	
	27日			27日			27日	
	28日			28日			28日	
	29日			29日			29日	
	30日	片曾根山清掃登山		30日	愛郷祭プレス発表		30日	
				31日				

一般社団法人田村青年会議所 2023年度会務報告

7月	1日	第53回福島ブロック大会(～2日)	8月	1日		9月	1日	
	2日			2日	第12回ひとづくり委員会		2日	東北青年フォーラム
	3日			3日			3日	東北青年フォーラム
	4日			4日			4日	
	5日	愛郷祭第7回実行委員会 第7回四役会		5日	一関夏まつり		5日	
	6日	第11回ひとづくり委員会		6日	青森ねぶた祭		6日	第9会四役会
	7日			7日			7日	
	8日			8日	第8回四役会		8日	第12回ひとづくり委員会
	9日			9日			9日	
	10日			10日			10日	
	11日	愛郷祭第8回実行委員会 OB会総会		11日			11日	
	12日	第6回総務委員会		12日			12日	
	13日			13日			13日	
	14日			14日			14日	第9回理事会
	15日	JCI白河65周年記念式典		15日			15日	
	16日	たむら愛郷祭		16日			16日	
	17日			17日			17日	
	18日			18日	第8回愛郷まちづくり委員会 第9回総務委員会		18日	
	19日	第7回理事会		19日			19日	
	20日			20日	ふねひき大会		20日	
	21日			21日			21日	第9回県南エリア会議
	22日	サマーコンファレンス2023		22日	第8回理事会		22日	
	23日	サマーコンファレンス2023		23日	8月例会・8月通常総会		23日	
	24日			24日			24日	9月例会・親子ディスクゴルフ交流会
	25日			25日			25日	
	26日			26日			26日	
	27日			27日			27日	
	28日	7月例会・会員親睦会		28日			28日	
	29日			29日			29日	
	30日			30日			30日	
	31日			31日	第1回かんぶらコンペ			

一般社団法人田村青年会議所 2023年度会務報告

10月	1日		11月	1日		12月	1日	東北地区2024年度第1回会員会議所予定者会議 東北地区2023年度第3回会員会議所会議
	2日	第10回四役会 2024年度第1回四役予定者会議		2日			2日	12月例会・田村JC卒業式 クリスマス家族会
	3日			3日			3日	
	4日			4日	第18回三春秋まつり		4日	
	5日			5日	第18回三春秋まつり		5日	
	6日	第72回全国大会		6日			6日	
	7日	第72回全国大会		7日	第11回四役会 2024年度第2回四役予定者会議		7日	
	8日			8日	第11回愛郷まちづくり委員会		8日	
	9日			9日			9日	
	10日			10日			10日	
	11日	第10回愛郷まちづくり委員会 第42回田村富士ロードレース大会 第3回実行委員会		11日			11日	
	12日			12日			12日	第12回四役会 2024年度第3回四役予定者会議
	13日	第15回ひとづくり委員会		13日			13日	次年度ひとづくり委員会
	14日			14日			14日	
	15日			15日	2024年度第2回県南エリア会議		15日	
	16日	福島ブロック大会主管LOM引継会		16日			16日	
	17日	第10回理事会 2024年度第1回理事予定者会議		17日			17日	
	18日	第10回県南エリア会議(田村開催)		18日			18日	
	19日			19日			19日	第4回ブロック大会実行委員会
	20日			20日	11月例会・経営デザインシートを用 いて磐越東線の魅力を考える		20日	
	21日	標葉祭り		21日	第11回理事会 2024年度第2回理事予定者会議		21日	
	22日	標葉祭り		22日			22日	
	23日			23日			23日	
	24日			24日			24日	
	25日			25日			25日	
	26日	10月例会・JCI Discoverセミナー		26日			26日	第12回理事会 2024年度第3回理事予定者会議
	27日			27日			27日	
	28日			28日			28日	事務局納め
	29日			29日			29日	
	30日	第10回総務委員会		30日	第2回かんぶらコンペ		30日	
	31日						31日	

【一般社団法人田村青年会議所 2023年度 庶務報告】

【理事会】

■第1回理事会 2023年1月24日（火）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 2023年度理事長所信（案）について
- 第2号議案 2023年度基本理念及び基本方針（案）について
- 第3号議案 2023年度事業計画（案）について
- 第4号議案 2023年度職務分掌（案）について
- 第5号議案 2023年度組織図（案）について
- 第6号議案 2023年度愛郷まちづくり委員会副理事長所信（案）について
- 第7号議案 2023年度愛郷まちづくり委員会事業計画（案）について
- 第8号議案 2023年度ひとつくり委員会副理事長所信（案）について
- 第9号議案 2023年度ひとつくり委員会事業計画（案）について
- 第10号議案 2023年度総務委員会副理事長所信（案）について
- 第11号議案 2023年度総務委員会事業計画（案）について
- 第12号議案 2023年度1月例会事業計画並びに予算（案）について
- 第13号議案 2023年度1月通常総会事業計画並びに予算（案）について
- 第14号議案 2月例会及び会員拡大セミナー事業計画並びに予算（案）について

全議案可決

■第2回理事会 2023年2月21日（火）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 2023年1月例会事業報告並びに決算（案）について
- 第2号議案 2023年1月通常総会事業報告並びに決算（案）について
- 第3号議案 3月例会及びソーシャルビジネスセミナー事業計画並びに決算（案）について

全議案可決

■第3回理事会 2023年3月14日（火）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 4月例会及び異業種交流事業計画並びに予算（案）について
- 第2号議案 鈴木友介君新入会承認（案）について

全議案可決

■第4回理事会 2023年4月20日（木）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 5月例会及びSNSセミナー事業計画並びに予算（案）について
第2号議案 6月例会及びイクボスセミナー事業計画並びに予算（案）について
第3号議案 2024年度理事長・監事候補者選出委員会設置計画並びに予算（案）について
第4号議案 2月例会及び会員拡大セミナー事業報告並びに決算（案）について
第5号議案 3月例会及びソーシャルビジネスセミナー事業報告並びに決算（案）について
第6号議案 坂本龍之君 新入会承認（案）について
第7号議案 富山和明君 退会承認（案）について

全議案可決

■第5回理事会 2023年5月19日（金）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 4月例会及び「同士を増やせ！」異業種交流パークゴルフ大会事業報告（案）について
全議案可決

■第6回理事会 2023年6月22日（木）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 7月例会並びに2024年度福島ブロック大会会場視察及びバーベキュー
親睦会事業計画（案）について

全議案可決

■第7回理事会 2023年7月19日（水）午後6時30分 於：事務局

- 第1号議案 8月例会事業計画並びに予算（案）について
第2号議案 8月通常総会事業計画並びに予算（案）について
第3号議案 三春町長選挙公開討論会事業計画並びに予算（案）について

全議案可決

■第8回理事会 2023年8月22日（火）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 6月例会及び「イクボスセミナー」事業報告並びに決算（案）について
第2号議案 9月例会及び親子ディスクゴルフ交流会事業計画（案）について
第3号議案 5月例会及びSNS「活用」セミナー事業報告並びに決算（案）について
第4号議案 相楽朋来君新入会員承認（案）について
第5号議案 松本幸児君新入会員承認（案）について

全議案可決

■第9回理事会 2023年9月14日（木）午後7時00分 於：事務局

- 第1号議案 10月例会及びJCI Discover セミナー事業計画並びに予算（案）について
第2号議案 7月例会並びに2024年度福島ブロック大会会場視察及びバーベキュー
親睦会事業報告（案）について
第3号議案 8月例会事業報告（案）について
第4号議案 8月通常総会事業報告並びに決算（案）について

全議案可決

■第10回理事会 2023年10月17日（火）午後6時00分 於：事務局

- 第1号議案 11月例会及び経営デザインシートを用いて磐越東線の魅力を考える
事業計画並びに予算（案）について
第2号議案 12月例会及び卒業式事業計画並びに予算（案）について

全議案可決

■第11回理事会 2023年11月21日（火）午後6時00分 於：事務局

- 第1号議案 9月例会及び親子ディスクゴルフ交流会事業報告並びに決算（案）について
第2号議案 10月例会及びJCI Discover セミナー事業報告並びに決算（案）について
第3号議案 添田麻美君退会承認（案）について

全議案可決

■第12回理事会 2023年12月26日（火）午後6時00分 於：事務局

- 第1号議案 11月例会及び経営デザインシートを用いて磐越東線の魅力を考える事業報告
並びに決算（案）について
第2号議案 12月例会及び卒業式事業報告並びに決算（案）について
第3号議案 永井寛人君退会承認（案）について
第4号議案 鈴木友介君退会承認（案）について

全議案可決

【 総 会 】

■1月通常総会 2023年1月27日（金）午後6時00分 於：開宝花の湯

- 第1号議案 2022年度 事業報告承認の件

- 第2号議案 2022年度 決算報告承認の件
第3号議案 2024年度 事業計画（案）承認の件
第4号議案 2024年度 収支予算（案）承認の件
第5号議案 産休育休中の会費に関する規約変更（案）承認の件

全議案可決

■ 8月通常総会 2023年8月23日（水）午後7時30分 於：迎賓館辰巳屋

- 第1号議案 2024年度 役員人事（案）承認の件

全議案可決

一般社団法人田村青年会議所 2023年度例会出席報告

※例会出席率の算出に総会出席は入りません

	役職等	氏名	1月例会	2月例会	3月例会	4月例会	5月例会	6月例会	7月例会	8月例会	9月例会	10月例会	11月例会	12月例会	出席率
1	理事長	勝山 修二	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
2	直前理事長	米谷 量平	○	○	○	×	○	×	×	○	○	○	○	○	75%
3	副理事長	村田 将一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100%
4	副理事長	橋本 隆亮	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	92%
5	専務理事	石井 聡一	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	92%
6	理事	横田 涼	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	83%
7	理事	富山 和明	○	○	×	/	/	/	/	/	/	/	/	/	67%
8	理事	玄葉 俊行	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	92%
9	理事	村上 真彦	○	○	○	○	×	○	×	○	○	○	×	○	75%
10	理事	杉内 海斗	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	8%
11	理事	舞木 光	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	83%
12	理事	荒井 夢子	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	○	○	83%
13	監事	橋本 元太	○	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	50%
14	委員	武藤 友紀	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0%
15	委員	石川 陽二郎	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0%
16	委員	三浦 聡	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	8%
17	委員	石井 孝征	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0%
18	委員	佐藤 隆介	×	×	○	×	○	×	×	○	×	×	○	○	42%
19	委員	村田 憲一	○	○	○	×	○	○	×	○	×	○	○	×	67%
20	委員	永井 寛人	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	75%
21	委員	鈴木 啓太	○	○	○	×	×	○	×	○	○	○	○	○	75%
22	委員	添田 麻美	○	×	×	×	×	○	×	○	×	×	×	○	33%
23	委員	鈴木 友介	/	/	×	○	○	×	×	○	○	○	○	×	60%
24	委員	坂本 龍之	/	/	/	○	○	○	×	○	×	×	○	○	67%
25	委員	相楽 朋来	/	/	/	/	/	/	/	○	×	○	×	×	40%
26	委員	松本 幸児	/	/	/	/	/	/	/	○	×	○	○	○	80%
27	外部監事	吉田 典史	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	×	○	67%
出席合計人数(外部監事含む)			16	16	15	11	14	12	9	21	11	17	17	17	

一般社団法人田村青年会議所 2023年度理事会議出欠一覧

No.	役職	氏名	第01回	第02回	第03回	第04回	第05回	第06回	第07回	第08回	第09回	第10回	第11回	第12回	出席率	備考
1	理事長	勝山 修二	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100 %	
2	直前理事長	米谷 量平	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	92 %	
3	副理事長	村田 将一	○	×	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	83 %	
4	副理事長	橋本 隆亮	○	○	○	○	×	○	○	○	×	○	○	×	75 %	
5	理事	横田 涼	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	92 %	
6	理事	玄葉 俊行	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	92 %	
7	専務理事	石井 聡一	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100 %	
8	理事	村上 真彦	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	92 %	
9	理事	杉内 海斗	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	8 %	
10	理事	舞木 光	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100 %	
11	理事	荒井 夢子	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	100 %	
12	理事	橋本 元太	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	92 %	
13	監事	富山 和明	○	○	○	×	△	△	△	△	△	△	△	△	75 %	
14	監事(外部)	吉田 典史	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	92 %	
理事出席 計 (14名中)			14	12	13	12	10	10	10	12	10	12	11	0		

【一般社団法人田村青年会議所 2023年度 出向者報告】

公益社団法人日本青年会議所

地域グループ地域スポーツ活性委員会

委員 米谷 量平

JC カップ U-11 少年少女サッカー全国大会の開催地が福島県檜葉町の J ヴィレッジで開催されていることもあり、また、日本青年会議所の運動に興味もあり、出向させていただきました。

出向先では、全国各地から集まった委員会メンバーをはじめ、各地区協議会、各ブロック協議会とともに、JC カップの各ブロック予選、地区予選、全国大会、そして初開催となりましたアジアパシフィック大会を企画・運営できたことができました。また、サマーコンファレンスでは e スポーツ事業「esports[∞]possibility」を開催し、国籍や年齢に関わらず活躍の可能性について体感していただくことができました。

私自身も微力ながら、10月7、8の両日開催されました全国大会において開会式、閉会式の設営を担当させていただきました。福島ブロック協議会の慣れ親しんだメンバーだけではなく、全国各地の多くのメンバーと触れ合うことができた有意義な機会となりました。

出向の機会をいただきました勝山理事長をはじめ、LOMのメンバーに感謝を申し上げますとともに、この経験をLOMに還元できるよう今後も精進してまいります。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区協議会東北青年フォーラム運営委員会

委員 橋本 隆亮

本年度、東北青年フォーラム運営委員会に出向させていただきました。東北地区協議会への出向は初めてで、遠方の委員会（主たる開催地は青森・岩手・秋田）に出席できるか不安もありましたが、毎回WEB併用であったことから、都合がつく限り委員会に出席することができました。

しかし、参加しやすいというのはWEB会議の利点ですが、委員会の前後や休憩中に委員会メンバーと雑談ができるわけでもなく、また委員会後の懇親会に参加するわけでもないので、他の委員と仲良くなるにはWEBでは限界があると感じました。

フォーラム当日は、2日間にわたりイベントの運営に当たります。委員会ではなかなか距離が縮まらなかったほかの委員と仲良くなるチャンスだと、お揃いのTシャツを購入して意気込んでおりましたが、フォーラム数日前に妻子が次々に新型コロナウイルスに罹患したことから、やむなく欠席することになりました。挽回の契機を活かすことができず、大変口惜しい結果となりました。

私は今年で卒業するため出向も今回で最後ですが、来年以降、出向の機会をいただいた

メンバーにおかれては、WEB会議の利点をうまく活用しながらも、現地に足を運ぶ意味も知っていただきたいと思います。特に東北地区や日本へも出向となれば、委員メンバーは初めて会う人たちばかりですから、いくらWEB会議に参加しても距離は縮まりません。出向の意義は人それぞれですが、ただ出席するだけでは後には何も残らないということを失敗談の1つとしてご紹介申し上げ、年間の出向者報告とさせていただきます。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区協議会 東北ゼミナール特別委員会

委員 村田 将一

2023年度、東北ゼミナール特別委員会に委員として出向をさせていただきました。私が所属したゼミでは東北地区にカーボンニュートラルを推進するため、意識調査や今後の取り組みについて調査研究しカーボンニュートラルパートナーシップに繋げていきました。

3月には所属ゼミが主体となり秋田県由利本荘市にてCO2がどのように排出され吸収されるかをフィールドワークなどを通して学んでいただく事業と研究発表を行いました。

また、他のゼミではリーダーシップや地域の魅力発信などについて学ぶことのできる事業を行い学び多き一年となりました。

今回の出向で多くの学びと東北各地に一生付き合える仲間を得ることができました。この学びを活かして今後も青年会議所活動をしていきたいと思っています。一年間ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区福島ブロック協議会 ブロック大会実行委員会

副委員長 舞木 光

本年の福島ブロック大会は猪苗代エリアで開催され、私は副委員長として出向し、記念式典事業の責任者を拝命しました。初めての事業責任者として、不安や歴史ある大会の重圧に悩まされる日々が続きましたが、無事にブロック大会および記念式典事業を遂行できたのは、ブロック大会実行委員会とLOMメンバーの支えがあったからだと確信しています。

今回の出向を通じて、私は「対話の中で議論を深め、自分なりの答えを見つける大切さ」を学びました。事業を構築する際、入会歴が浅いため、経験が豊富な先輩方に頼ることが多く、事業を例年通りに進めることに焦点を当てがちでした。しかし、「あなたはどのようにしたいのか」という問いに直面することが多々ありました。最初はその問いの意味が理解できませんでしたが、事業計画を進める中で、様々な議論を通じて自分の考えを深め、「私はこうしたい」と表現することの大切さに気づきました。過去の先輩方が築き上げてくださった教訓を受け継ぎ、大会に関わる全ての人が良いと感じるような事業運営を目指し、一人

ひとりの想いが福島ブロック大会をより良いものにしていくことを感じました。1年間、貴重な機会を頂きありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区福島ブロック協議会ブロック大会実行委員会

幹事 米谷 量平

田村青年会議所が2024年度福島ブロック大会を主管することに決定したことを受け、大会の意義や運営面を学ぶ機会と考えて出向いたしました。2023年度は一般社団法人猪苗代青年会議所が主管LOMであり、大会テーマを「リジェネラティブ～環境と経済の両立を目指して～」として開催されました。

私は福島ブロック協議会のブロック大会実行委員会幹事として、記念式典事業を担当する舞木光副委員長をお支えするとともに、委員会全体の幹事として飲みニケーションの場の進行の役割を頂戴しました。事業立案に関しては委員長、副委員長をはじめとする委員会スタッフが多くの時間を割いて練り上げている姿を目の当たりにしました。また、大会当日に向けて委員会メンバーをはじめ、県内各地会員会議所メンバーの士気を高めていくことの重要性やその難しさを感じました。

個人的な事情で、最重要である福島ブロック大会に参加することが叶わず、悔しい思いが残る出向となりました。2024年度はいよいよ田村青年会議所主管の大会となりますので、今回の出向やこれまでの2年間の想いを形にできるよう精進してまいります。出向の機会をいただきました勝山理事長をはじめとするLOMメンバーの皆様ありがとうございました。また、同じ委員会に出向しました舞木副委員長、橋本元太さん、大変お世話になりました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区福島ブロック協議会 ブロック大会実行委員会

委員 橋本 元太

自身の青年会議所最終年に出向することに非常に悩みましたがやはり一年間を終えて思うことは出向して良かった、出向は嬉しいこの一言につきます。福島県内のメンバーで構成され各地域からいろいろな学び気づきを得ることができ非常に有意義なラストイヤーを過ごせました。理事長を始めとするメンバーの皆さま出向させていただきありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区福島ブロック協議会 福島の未来創造委員会

委員 村田 将一

2023年度、福島の未来創造委員会に委員として出向させていただきました。

アカデミー委員会以外では初の出向ということもあり不安もありましたが、出向先のメンバーとも仲を深めることができ楽しく活動することができました。

JCカップや防災減災ブースの出店、福島の魅力フェスで様々な役割を担当させていただきました。私にとって学び多き一年となりました。

今後、この経験で得た学びを活かしていきたく思います。

一年間ありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区福島ブロック協議会アカデミー委員会

委員 荒井 夢子

今年度のアカデミー委員会は、計4回の委員会と計2回の座談会、塾ごとの塾会議が複数回開催されました。

委員会では、JCの基礎と理念に関する勉強会、パブリックスピーキング講座、議案書セミナー、JCI日本公認プログラム「Impact」および「Purpose」を受講しました。座談会では、「多様性」をテーマとし、女性会員、サラリーマン会員、障がいを持つ会員など、少数派でありながらも生き生きと活躍する諸先輩方からお話を伺いました。

日頃、女性会員と接する機会が少ない私にとって、二瓶明子先輩（公益社団法人二本松青年会議所 第45代理事長）、曾根香奈子先輩（公益社団法人半田青年会議所 第56代理事長）、加藤三佳君（JCI日本公認トレーナー／公益社団法人前橋青年会議所）、波多野麻美先輩（公益社団法人東京青年会議所 第68代理事長）、橘あすか先輩（公益社団法人いわき青年会議所）、神畑浩子君（公益社団法人日本青年会議所 国際アカデミー委員会委員長／公益社団法人姫路青年会議所）との出会いは、大きな励みとなり、背中を押されるものがありました。

不安と期待が入り交じる初めての出向でしたが、出向しなければ得られなかった多くの学びに恵まれました。次年度、LOMと田村圏にしっかりと還元できるよう努めてまいります。一年間、本当にありがとうございました。

一年間、誠にありがとうございました。

公益社団法人日本青年会議所

東北地区福島ブロック協議会アカデミー委員会

委員 村田 憲一

1年間出向させていただき、たくさんの人と出会いさまざまな考え方に触れることができました。

社業や家庭の事情で少ない出席でしたが、今回の出向で学んだことを LOM で生かし活動の基盤にしていきたいと思います。

一年間、ありがとうございました。

【一般社団法人田村青年会議所 2023年度 監事報告】

監事 橋本 元太

本年度より監事を務めさせていただきました。現役最後の年でありメンバーの運動、活動を客観的に観ることはいままで気づかなかった点やこうすれば良いものになる、些細な点でも基本的な部分をメンバーに伝えることで改めて JC の良さや成長の機会について学べたそんな一年間でした。振り返ると最初の理事会のときはただそこにいるだけだった自分が今では発言し若手に相談されるそんな立場になったことに気づき、こうやって永続していくものなのだと感じました。一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

外部監事 吉田 典史

2023年度、昨年度に引き続き外部監事の職を務めさせていただきました。卒業してからの2年間であり、現役とJC運動、活動を行う最後の機会でした。やはり、自分が現役であった時には気付かなかった点や、思いばかりが先走り、議案に落とし込めない点など第三者の目線で見なければ気付けないことがあるとわかりました。監事講評でも伝えさせていただきましたが、現役の皆さんには猛進するのはいいですが、時には立ち止まり客観的に自分を分析することも大事であると思います。LOMのため、地域のために会議をするのですから時には意見が合わなかったり、衝突したりするのは当然です。衝突したとしても、そこは会議の場ですから会議が終わればそれはそれ、その後の懇親会で笑って酒を酌み交わしながら至らなかつた点や、悪かつた点を言い合えればそれでお互い様なのです。人の目を気にして意見ができない、間違つた事を指摘できないような会議などそもそも行う意味などなく、自分にとっても何にとっても良い事など一つもないのです。JC歴が浅い、役職が低いことなど関係なく同じ地域を想うものの一人として会議に臨んでいただきたいです。

最後に、卒業してからの2年間に貴重な機会をいただいた理事長をはじめ、一緒に成長できた頼もしい仲間たちに感謝するとともに、これからの田村青年会議を託し、真の卒業をもって私の活動報告とさせていただきます。2年間ありがとうございました。

(一社) 田村青年会議所 2023年度 収支決算書

2023年1月1日～2023年12月31日

(単位 円)

	2023年度決算	2023年度予算	差額	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 特定資金運用収入	0	0	0	
② 入会金収入	180,000	450,000	△ 270,000	新入会員6名 (¥30,000×6名)
③ 会費収入	2,080,000	2,080,000	0	
正会員会費	1,900,000	1,900,000	0	正会員19名 (¥100,000×19名)
新加入会員会費	0	0	0	
特別会員会費	180,000	180,000	0	特別会員6名 (¥30,000×6名)
賛助会員会費	0	0	0	
④ 事業収入	480,000	480,000	0	
事業費繰入	0	0	0	
登録料	0	0	0	
業務受託	0	0	0	
預り金	0	0	0	
雑収入	480,000	480,000	0	三春ロータリークラブ事務受託収入
⑤ 補助金等収入	0	0	0	
地方公共団体助成金	0	0	0	
⑥ 寄付金収入	250,000	250,000	0	
寄付金	250,000	250,000	0	OB会協力金
⑦ 雑収入	9,856	20,010	△ 10,154	
受取利息	3	10	△ 7	貯金利息
その他雑収入	9,853	20,000	△ 10,147	JCカード利用手数料等
⑧ 他会計からの繰入金収入	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
基金会計からの繰入金	0	0	0	
事業活動収入計	2,999,856	3,280,010	△ 280,154	
2 事業活動支出				
① 事業費支出	390,432	460,000	△ 69,568	
地域活性化事業	116,402	140,000	△ 23,598	愛郷まちづくり委員会
人材育成事業	48,032	140,000	△ 91,968	ひとづくり委員会
災害支援・復興事業	0	0	0	
研修事業	14,014	40,000	△ 25,986	総務委員会
交流事業	61,984	40,000	21,984	総務委員会 (卒業式会場費等)
会員拡大事業	0	100,000	△ 100,000	会員拡大委員会
事業会計支出	150,000	0	150,000	愛郷祭実行委員会へ
② 管理費支出	2,063,791	2,201,585	△ 137,794	
会議費	20,000	20,000	0	2024年度京都會議登録料, 会員会議所会議
例会運営費	17,377	80,000	△ 62,623	1月・8月通常総会会場費, 年間事業報告会会場費等
給与手当	960,000	960,000	0	¥80,000×12か月
福利厚生費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
通信・送費	149,546	170,000	△ 20,454	通話料, 通信料, 発送費等
インフォメーション関係費	8,765	11,000	△ 2,235	おさいぼ
広報費	66,000	66,000	0	新聞広告費 (民報, 民友)
消耗品費	130,591	200,000	△ 69,409	コピー用紙, トナー, 事務用品等
会員支給品費	50,030	75,000	△ 24,970	JCバッジ, ネームプレート等 (新入会員7名分)
リース料	10,032	10,032	0	コピー機リース料
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	13,610	15,000	△ 1,390	年賀状印刷代
光熱水道料費	0	4,000	△ 4,000	
貸借料	277,200	277,200	0	家賃月額¥23,100円×12か月
業務委託費	0	0	0	
記念品費	75,750	120,000	△ 44,250	卒業生記念品 (4名), 花代等
保険料	0	0	0	
租税公課	82,600	83,050	△ 450	印紙, 法人県民税, 法人町民税等
渉外費	139,902	90,000	49,902	慶弔費, 諸会費, 交際費等
雑支出	62,388	20,303	42,085	振込手数料, ごみ処理, クリーニング代
③ 負担金支出	554,808	723,245	△ 168,437	
国際青年会議所負担金	56,108	51,870	4,238	(13米ドル×166円)×26名
日本青年会議所負担金	185,000	225,000	△ 40,000	¥5,000×24名+¥2,500×2名+¥30,000 (LOM) 出向者¥20000×1名・¥10000×1名
地区協議会負担金	41,000	67,500	△ 26,500	¥1,500×24名+基本金¥5,000
ブロック協議会負担金	155,000	210,000	△ 55,000	¥5,000×24名+¥35,000 (LOM)
国際協力資金	47,450	63,875	△ 16,425	¥1,825×26名
We Believe購読料	70,250	105,000	△ 34,750	¥3,000×22名+¥2,250×1名+¥1,000×2名
④ 他会計への繰入金支出	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
基金会計への繰入金	0	0	0	
事業活動支出計	3,009,031	3,384,830	△ 375,799	
事業活動収支差額	-9,175	-104,820	95,645	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	0	0	0	
2 投資活動支出	0	0	0	
① 特定資産取得支出	0	0	0	
退職給付引当資産取得	0	0	0	
② 固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品取得	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財政活動収支の部				
1 財務活動収入	0	0	0	
2 財務活動支出	0	0	0	
当期収支差額	-9,175	-104,820	95,645	
前期繰越収支差額	104,820	104,820	0	
次期繰越収支差額	95,645	0	95,645	

自：2023年1月1日 至2023年12月31日

■一般会計正味財産増減計算書

(単位：円)

科 目	金 額	
I. 増加の部		
1. 資産増加額		
資産増加合計		
II. 減少の部		
1. 負債増加額	9,175	
負債の部合計	9,175	
当期収支差額		-9,175
当期正味財産増加額		-9,175
前期繰越正味財産額		104,820
期末正味財産合計額		95,645

2023年12月31日現在

■一般会計貸借対照表

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	95,645	
流動資産合計		95,645
2. 固定資産		
その他固定資産	0	
構築物	0	
備品	0	
固定資産合計		0
資産合計		95,645
II. 正味財産の部		
正味財産		95,645
(うち当期正味財産額)		0
負債及び正味財産額合計		95,645

■一般会計計算書類に対する注記

- 重要な会計方針
 - 固定資産の減価償却について
有形固定資産の減価償却は定率法で実施している。
 - 資産の範囲について
資産の範囲には、現金、預金、未収金、仮払金、立替金及び未払い金、預かり金、預託金を含めている。
 - 消費税について
消費税については、税込み表示をしている。
- 次期繰越収支差額の内容は次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
現金 預金	104,820	95,645
合計	104,820	95,645
次期繰越収支差額	104,820	95,645

2023年12月31日現在

■一般会計財産目録

科 目	金 額	
I. 資産の部		
1. 流動資産		
現金	31,314	
普通預金 東邦銀行三春支店	56,284	
東邦銀行船引支店	7,757	
郡山信用金庫三春支店	290	
流動資産合計		95,645
2. 固定資産		
有形固定資産	0	
構築物看板	0	
備品 パソコン	0	
固定資産合計		0
資産合計		0
正味財産		0

会 計 監 査 報 告

会計は、予算に基づき適正に処理されており、また計算書類は定款に従い財産及び収支の状況を正しく示してあると認める。

令和 6 年 1 月 17 日

一般社団法人 田村青年会議所

監事

吉田典史



監事

橋本元太



スローガン

一心一徳

～未来を昇華させるために～

一般社団法人田村青年会議所 第43代理事長 石井 聡一

【はじめに】

私は田村市の北東部に位置する小さな集落で生まれ育ちました。

かつて浜通り地方と中通り地方を結ぶ重要な宿場町として栄えたこの地は、先人たちが紡いでくれた歴史や伝統、豊かな自然環境に恵まれ、四季折々の風景が感じられる地域があります。日常生活を送る中で、決して利便性が高いところではありませんが、地域に住み暮らす一人ひとりが地域を想い、ともに助け合い、ともに行動する強いコミュニティが現在も存在しています。そして何よりも、地域の子どもたちをまるで自身の家族であるかのように育む愛情や人情の深さが魅力の地域であります。

そんな環境で成長させていただいた中で、人と人とのつながりの大切さ、人を思いやる心、常に感謝を忘れないことなど、「ひと」がまちを構成する最も重要な要素であることを学ばせていただきました。段々と自身の将来を考えるようになり、「育ててくれた方々に恩返しをしたい」、「地域のために役に立つ仕事がしたい」という思いが醸成され、公務員という仕事を目指すことを決意しました。現職に就いて以来、様々な「やりがい」を感じる一方、「行政ではできない」、「民間がやるべき」といったどこか他人事のような、いわば「行政の限界」に直面し、戸惑い悩むことが多くなりました。

そんな時、同じ公務員でもある青年会議所の先輩から声をかけていただき、青年会議所に出会うことができました。職種や立場がそれぞれ異なる会員が同じ志を持ち、集い、地域に住み暮らす方々のために全力で行動するその姿に感銘を受けるとともに、「青年会議所でしかできない」「青年会議所だからこそできることがある」と確信しました。

今、日本は、急速に進行する少子化とその背景にある若年層の将来不安への対応、雇用形態や年齢、性別等を問わず誰もが暮らしやすい包摂社会の実現、気候変動や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえた持続可能な経済社会の構築など、私たちの意識の変化や社会変革を求める構造的な課題に直面しています。そして、これらの課題は、私たちの住み暮らす田村圏においても例外ではありません。

スローガンに掲げた「一心一徳」は、大勢の人が共通の^{しあわせ}幸福のために心を一つにして団結することを意味します。

私たち青年会議所においても「時代の転換点」とも言える今、様々な課題の克服に向け、一人ひとりが高い志を持ち、一致団結し、新時代にふさわしい社会を創造していかなくてはなりません。

【主体性を育むひとづくり】

まちづくりの根幹は、ひとづくりであります。ひとがあつてまちが成り立ち、ひとの活躍によってまちに賑わいや潤いが創出されるのであり、そして、その原動力となるものは一人ひとりの「主体性」であると考えます。

一人ひとりが住み暮らすまちをより良くするためには、まずは自らが足を運び、目で見、話を聞き、課題を把握し、その上で、どうすればまちがよくなるのかを考え行動する。他人事ではなく、自分事として捉えることが必要不可欠であります。

田村圏の各自治体においても、テレワークセンター整備や就業・定住支援といった様々な施策を展開し、新たな人流を生み出しています。しかしながら、地域住民や地域団体などのコミュニティーとのつながりが形成できず、魅力的な取組みが認知されない、活動が継続できないといった現状も見受けられます。

選ばれ、そして、輝き続けるまちとなるべく、田村圏に住み暮らす方、つながりがある方の中から一人でも多くの方が田村圏を見つめなおし、田村圏をより良くしようという、すなわち、「田村圏に関心を持って、関わろうとする想い」を醸成することが重要です。

また、地域にとって次代を担う子どもたちはかけがえない宝であります。しかしながら、近年は新型コロナウイルス感染症の影響により、まちの魅力を知る、地域に住み暮らす方々と触れ合う機会が失われてしまいました。5類感染症に移行し、少しずつ日常が戻りつつある今こそ、改めて、地域と関わる機会を創出し、将来、私たち現役世代はもちろんのこと、子どもたちが住み暮らし続けたいと思えるまちづくりを進めていかなければなりません。

「田村圏の良さは何か？」と問われた時、私は「ひと」と答えます。

田村圏に住み暮らすひとが好きで、田村圏のまちを誇りに思い、そして、田村圏の将来や課題を自分事として考え、行動する。そんな主体性をもつことがリーダーであり、リーダーがまちの魅力を創り上げています。

この誇れる地域資源をさらに磨き上げる「ひとづくり」を展開してまいります。

【共感し成長を続ける仲間づくり】

令和6年1月現在、田村青年会議所の会員数は21名であり、会員の平均年齢は36歳となっており、会員数はもとより、在籍年数の短さにより、組織の存続や運動・事業の継承が危ぶまれる状況となっています。

これまで先輩方が築き上げてこられた田村青年会議所の歴史を紡ぐとともに、これまで以上に発展・成長していくためには会員の確保は喫緊の課題であります。

様々な運動・事業を実践している現在においても、「青年会議所は何をしている団体なの

か」といった声は度々、聞こえてきます。

青年会議所への入会は、候補者に対していかに青年会議所の魅力を伝えられるか、意識を変えることができるかが重要であり、会員一人ひとりが改めて青年会議所の意義や理念を再認識することが必要不可欠です。

単に青年会議所に入会するだけでは意味はありません。一人ひとりが地域や自身と向き合い、あらゆる面で行動に移していかなければなりません。いわば即戦力となる会員を迎えるためには、むやみやたらに入会を勧めるのではなく、青年会議所の唯一性を正しく伝えることが重要であります。

また、令和5年6月に政府決定された「女性活躍骨太の方針2023（女性活躍・男女共同参画の重点方針2023）」や同年6月に公布された「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」で示されるとおり女性活躍、共生社会、包摂社会の実現に向けた取組みが進められる現代社会において、性別、年齢、職業等によらず、誰もが地域のリーダーとなる機会を提供することが必要です。

青年会議所がどういった団体かを理解して入会するケースは多くありません。私は入会后、運動や事業を通じて、さらには、福島ブロック協議会アカデミー委員会や県内各地の青年会議所のメンバーを通じて、青年会議所の本質を学ばせていただき、その過程で、これまでの日常では出会えなかった多くの人に出会い、青年会議所でしか得ることのできない経験を積むことで、自身を成長させることができました。

青年会議所は、多様な人財との出会い、将来にわたって切れることのない人脈を形成できるだけでなく、事業や運動、そして、自身の行動を通じてリーダーシップを学ぶことができる唯一無二の団体であると確信しています。

このかけがえのない想いを一人でも多くの方と共感し、共に成長を続けることができる「仲間づくり」を展開してまいります。

【多様なパートナーシップで築くまちづくり】

2022年度から開催している「たむら愛郷祭」では、田村圏内の飲食店や生産者、伝統文化団体、企業、各商工会青年部、行政等の様々な関係機関と協働することで、事業を成功裏に導くことができたほか、参加者間において新たなつながりを創出することができました。また、磐越東線を利用した来場者へ記念品を配布し、磐越東線の利活用を図るとともに、改めて磐越東線の重要性を認識いただく効果をもたらしました。

また、2016年に公益社団法人青森青年会議所と友好JCを締結して以降、新年会への参加等を通じてお互いの交流を深めるとともに、切磋琢磨してきました。2023年度においては、一般社団法人一関青年会議所及び一般社団法人あぶくま青年会議所と歴史的な背景をきっかけとして、合同事業を実施するなど新たな交流がスタートしました。

まちづくりは、一個人や一団体だけでは成すことはできず、多種多様な人財や団体との連携によって成すことができ、更なる成果や効果をもたらします。

全国の青年会議所においても、自治体、企業、社会福祉協議会や大学との間で連携協定を締結する事例が増加していることから、その必要性・重要性を窺い知ることが出来ます。パートナーシップの構築や連携した事業は、運動・事業への運営協力や人事交流、青年会議所会員としての入会といった人的側面のほか、専門的知見やノウハウの共有といった知的側面においても高い効果をもたらします。

2023年10月2日、田村市、三春町、小野町は2021年3月に解散していた田村地方市町長会を再度設立しました。田村圏が一体となる重要性や有効性が見直される今、青年会議所としてもこのチャンスを捉えた運動を進めていかなければなりません。

磐越東線については、利用者が激減している現状は変わりません。「生きたインフラ」である鉄道は、いかに「活用するか」が重要であり、利用者だけでなく地域一体となり知恵と努力を結集し、将来のあるべき姿を議論し、行動していかなければなりません。

地域のために貢献したい、より良くしたいと考える人財や団体は、青年会議所だけではないはずです。同じ志のもと、相互理解し、多方面からアプローチすることで地域課題の解決のほか、地域資源を高付加価値化させることとなり、ひいては、田村圏の更なる発展に寄与するものと考えます。

多様なパートナーシップで築く「まちづくり」を展開してまいります。

【胆識を鍛える組織づくり】

「修練」「奉仕」「友情」という三信条のもと、「明るい豊かな社会」の実現に向けて社会変革を起こす団体、そして、地域のリーダーや地域をけん引する人財を育成する団体が青年会議所です。

「平成」の元号の発案者であり、戦後の歴代総理の多くが師事した安岡正篤氏の教えに「三識」があります。「三識」とは、「知識」「見識」「胆識」の三つであり、このうち、現実の困難に直面してそれを乗り越えるべく行動することを意味する「胆識」こそがこれからのリーダーにとって必要不可欠な力であると考えます。

JAYCEEは、確固たる信念と強い意志のもとに、目標に向かって行動しなければなりません。知識、見識がどれだけ優れていても行動しなければ意味はありません。

行動するためには、前提として、自己研鑽に努めるとともに目的意識を持つことであり、その上で、明確な役割と責任が必要です。

はじめから困難を乗り越えることは容易ではありません。だからこそ繰り返し行動し、前進することにより、成果や効果をもたらされるとともに、自己の成長にも繋がるのです。さらに、在籍年数の少ない会員や新入会員に対しては、全員がスポンサーシップの自覚を持ち、支えることで組織力の向上を図ることができます。

青年会議所は地域社会に信用され、地域に必要とされる団体でなければなりません。「世界を動かそうと思ったら、まず自分自身を動かせ」と古代ギリシアの哲学者であるソクラテスの言葉にあるように、会員一人ひとりが自ら積極的に行動できる「組織づくり」に取

り組んでまいります。

【さいごに】

2024年度は田村青年会議所が誕生してから43年目を迎えるだけでなく、17年振りに福島ブロック協議会主催による福島ブロック大会を主管する貴重な一年となります。

福島ブロック協議会運動の最大の発信の場であるこのブロック大会において、2022年度からの集大成となる「たむら愛郷祭」を開催し、田村圏の魅力を最大限発信するとともに、先輩方が築き上げてこられた「田村は一つ」を体現したいと考えております。

田村圏に関心を持ち主体的に関わる方や仲間を一人でも増やし、会員一人ひとりが運動や事業を通じて自己成長を図るとともに、多様な人財・団体等とともに連携しながら、「明るい豊かな田村圏」の実現を目指し、粉骨砕身の覚悟で邁進してまいります。

一般社団法人田村青年会議所

2024 年度

基 本 理 念

一人ひとりが主体性を持ち、心を一つに団結し、
明るい豊かな田村圏のために行動する

基 本 方 針

1. 主体性を育むひとづくり
2. 共感し成長を続ける仲間づくり
3. 多様なパートナーシップで築くまちづくり
4. 胆識を鍛える組織づくり

一般社団法人田村青年会議所

2024 年度

事業計画

1. 主体性を育むひとづくり事業
2. 共感し成長を続ける仲間づくり事業
3. 多様なパートナーシップで築くまちづくり事業
4. 胆識を鍛える組織づくり
5. 継続事業の検証・検討・実行・承継
6. 運動推進のための補助金取得の調査・検討
7. 活発且つ透明性のある LOM 運営と効果的な情報発信
8. 法人格の維持継続
9. JCI、(公社)日本青年会議所、東北地区協議会、
福島ブロック協議会事業への積極的な参加
10. OB 会との連携・交流
11. 他 LOM、団体との積極的な交流
 12. 地域事業への積極的な参加

一般社団法人田村青年会議所

2024年度 職務分掌

【共通】

- 共－1 会員拡大の実行
- 共－2 友好 JC との交流
- 共－3 各種大会・会議等への積極的な参加・推進
- 共－4 OB 会との連携・交流
- 共－5 他 LOM、団体との積極的な交流
- 共－6 地域事業への積極的参加
- 共－7 継続事業の実施

【専務理事】

- 1 四役会・理事会の運営
- 2 諸会議・事業の出欠の確認
- 3 法人格の維持継続
- 4 LOM 内の諸連絡
- 5 事務局との連携、その他庶務に関する事項の実施

【事務局】

- 1 諸会議の設営と運営
- 2 法人格の維持継続
- 3 専務理事の補佐及びその他庶務に関する事項
- 4 ホームページの管理・運営
- 5 SNS等による効果的な情報発信
- 6 個人情報管理

【ひとづくり委員会】

- 1 主体性を育むひとづくり事業の企画・実施
- 2 共感し成長を続ける仲間づくり事業の企画・実施
- 3 分かりやすく伝える新入会員セミナーの企画・実施
- 4 例会の設営と運営

【愛郷まちづくり委員会】

- 1 多様なパートナーシップで築くまちづくり事業の企画・実施
- 2 磐越東線の魅力を田村圏、福島県内外に発信する事業の企画・実施
- 3 防災・減災に係る事業の企画・実施
- 4 例会の設営と運営

【総務委員会】

- 1 胆識を鍛える組織づくりの企画・実施
- 2 運動推進のための補助金取得の調査・検討
- 3 例会・総会の設営と運営
- 4 卒業式の設営と運営

副理事長 玄葉 俊行

(担当委員会：ひとづくり委員会)

魅力的なまちには素晴らしいリーダーが存在します。そのリーダーがまちの道標をつくり、その理念に共感したひとが更に拡がり、醸成しながら、また新たな価値を生み出していく。それを繰り返すことで魅力的なまちが形成されていきます。

旅行の行き先を決めるとき、多くの方は観光名所やグルメ情報を参考に決定することが多いのではないのでしょうか。私もその一人です。旅には目的が必要であり、その達成感で満足度が決まると考えます。しかし、満足度の高さだけでその土地をまた訪れたいと思うのでしょうか。私は多くのまちを訪れましたが、もう一度訪れたいと思えるところは数える程度しかなく、共通していることはその土地で出会った地域の魅力的なひととの出会いです。地域の文化遺産を守り、語り継いでくれる方。地域の伝統文化を継承し、歴史背景を伝えてくれる方。地域の新たな価値を創り出し、過去の歴史と繋ぎ合わせるきっかけとなった気付きを教えてくれる方。その方たちが旅の目的をさらに昇華させることで、満足度を最大化させるのではないのでしょうか。さらには、「また訪れたい」「ひとに伝えたい」という行動を引き出してくれます。

田村圏の最大の魅力とは何でしょうか。「たむら」が好きで、誇りに想い、将来の課題に向き合う「ひと」と答える人が大半です。しかし、地方回帰の機運、期待が高まる時代の中で、田村圏を外から見たときにどのように見えているのでしょうか。私たちの親世代は様々な地域とのコミュニティーを持ち、多くの地域活動を行っていました。そのため、「ひと」と「まち」の繋がりが多くの人財同士を引き合わせてくれました。その結果、主体性を持ったリーダーが存在していたのではないかと感じます。現在の田村圏には魅力あふれる人財が各地で多く存在します。そして、各々が地域のために活動しています。田村青年会議所のメンバーもその一人です。しかし、残念ながら「青年会議所は何をしている団体なのか」といった声が聞こえてくることも事実です。日々のJC活動は参加して想いを感じることができですが、想いを言葉で伝えなければ相手に伝わることはありません。私たちを含めた田村圏の人財が繋がりをもち、それぞれの想いを共鳴させることで、各々の活動が運動へと変わると私は考えます。そして、それが持続可能な運動へと変容することで新たな価値が創られると確信しています。責任世代の私たちが主体性をもったリーダーとなり、同じ志を持った仲間づくりを実現させることが、田村圏の最大の魅力となります。

青年会議所活動は40歳まで。多くの魅力ある人財との出会いの機会を持ち続けるためにも1日でも早く私たちから理念を伝えながら仲間づくりを進めて参ります。

副理事長 村上 真彦

(担当委員会：愛郷まちづくり委員会)

地域に住み暮らす私たち一人ひとりのまちを愛する心や誇りといった郷土愛を溢れさせることが持続可能な田村圏へと繋がっていくと考えます。持続可能な田村圏を創るためには形として見えるものだけでなく、地域の魅力を再発見し田村圏の魅力として創造し発信して郷土愛を育み続けなければいけません。

これまで開催した「たむら愛郷祭」は田村圏内3市町にある地域の誇れる魅力を掘り起こし、磨き上げる事業を地域の方とともに作り上げ、発信してきました。様々な関係機関との連携・協力により、事業を成功に導くことができたほか、新たなコミュニティが生まれ、個人や団体ともに繋がりを創出することができました。まちを形成しているのはひとであり、地域に住み暮らすひとに愛着心や関心、誇りを持てる機会を提供することで郷土愛が溢れるきっかけとなると確信しています。

そのために多種多様な人財や団体とのパートナーシップを構築していくことが重要です。これまで以上にそれぞれの分野における取り組みを強化していくためには、信頼できる強固なネットワークを有し、それぞれが個性や専門性を発揮することで協力して立ち向かっていくことが必要となります。多種多様な人財や団体が手を取り合い、異なるコミュニティがお互いの強みを活かすことで更なる成果や効果をもたらします。そして想いは伝播され、更にその輪が広がり続けると私は考えます。

また、昨年より廃線のリスクを抱えている磐越東線問題についても取り組んでおります。一部区間が赤字路線となり、未だその現状は変わりません。その中で、行政では利用促進や沿線地域の活性化に向け、対策協議会が発足されました。私たち田村青年会議所においても路線の魅力を今一度見つめ直し、その価値を伝え利用促進にむけて磐越東線の魅力を田村圏内外に発信し続けなければいけません。

会員はもとより、田村圏に住み暮らす人々がこの地域を想い、地域に誇りと愛を持ってもらえる「まちづくり」を多様なパートナーシップで築き上げた多くのひとや団体と同じ目的のために心をつなげて団結した事業を展開してまいります。

副理事長 村田 将一
(担当委員会：総務委員会)

福島県ではこの10年の間に約400ものNPOや民間団体が生まれ活発に活動しています。その中で、私たち青年会議所は地域の人たちにどれほど認識され必要とされているでしょうか。

私たち青年会議所は「明るい豊かな社会」の実現に向け地域住民を巻き込み意識変革をすることで地域課題を解決する運動を目指しています。その運動を最大限に効果的なものにするには、多くの方に協力いただく必要があります。しかし、青年会議所がどのような場所でどのような活動をしているか知られていない状態では簡単には協力を仰ぐことはできません。

地域の人に賛同してもらえる事業を行い、地域社会における必要性を証明することができます。重要です。

時代に即した事業を展開し、田村圏に住み暮らす人々から共感を得るためには創意工夫し地域の課題解決に繋げなければなりません。そのためには、知識と見識だけでは不十分であり、実行が伴わなければ、地域に十分な影響を及ぼすことはできません。しかし、実行には多くの困難が伴うことがあります。反対意見が強まったり、資源が不足することもあるでしょう。そのような困難を乗り越え成功に導くために、困難に直面してそれを乗り越える力である「胆識」を養う必要があります。

胆識は経験を通じて育まれ、成功体験だけでなく、失敗からも多くを学びます。会員同士が経験を共有し協力し合う環境を築くこと、失敗を否定せず、失敗を恐れず行動できる雰囲気を作る必要があります。

田村青年会議所を、地域社会に必要とされる団体とするため、会員一人ひとりが自ら積極的に行動し胆識を鍛える場となる「組織づくり」に取り組んでまいります。

2024 年度ひとづくり委員会事業計画

~Notice; to grow~

委員会名	ひとづくり委員会
担当副理事長	玄葉 俊行
委員長	米谷 量平
副委員長	村田 憲一
委員	杉内 海斗、相楽 朋来

1. 委員会方針

委員長所信

私は青年会議所がどんな団体なのか分からずに企業会員として 2013 年に入会しました。その後、多くの先輩方から物心両面での温かなご指導を賜り、青年会議所の理念や信条に共感してこれまで活動を続けてきました。入会当初から「青年会議所を最後まで続けて意味がなかったと言う先輩の話聞いたことがない。だから前向きに取り組んだほうが良い」とご教示いただき、積極的に活動へ参加し続けて 12 年目を迎え、「青年会議所に入会しなければ、今の人生はなかった」と心の底からそう思えるようになりました。第二次世界大戦後間もない 1949 年に「新日本の再建は我々青年の仕事である」と立ち上がり始まった日本国内での青年会議所活動ですが、この動機こそまさに主体性であり、青年会議所活動の本質であると考えています。

「少子化」「人口減少」「地方の過疎化」などが全国的に課題となっており、特に地方における担い手の不足が深刻さを増しています。私たちが住み暮らす田村圏においても例外なく同じ課題を抱えています。「地域のお祭りの担い手がいない」、「町内会活動をする人がいない」といった身近なところから、地方議会の議員選挙で定数に満たない可能性も出てくるなど様々なところに担い手不足の影響が顕在化してきています。主体性とは自分で決めて行動することであり、選択だけではなく結果にも責任を負うことです。今の田村圏に求められている人財とは主体性のあるリーダーなのです。

2024 年度ひとづくり委員会では、地域課題を把握し、そしてどうすればまちが良くなるのかを考えて行動できる主体性を育む事業に取り組みます。また、青年会議所の本質は主体性であることから、その精神を LOM メンバーや田村圏の方々に理解していただき、ともに成長しあえる団体となるよう注力してまいります。

2. 事業計画

【共通】

- 共－1 会員拡大の実行
- 共－2 友好 JC との交流
- 共－3 各種大会・会議等への積極的な参加・推進
- 共－4 OB 会との連携・交流
- 共－5 他 LOM、団体との積極的な交流
- 共－6 地域事業への積極的参加
- 共－7 継続事業の実施

【ひとづくり委員会】

- 1 主体性を育むひとづくり事業の企画・実施
- 2 共感し成長を続ける仲間づくり事業の企画・実施
- 3 分かりやすく伝える新入会員セミナーの企画・実施
- 4 例会の設営と運営

3. スケジュール

事業内容/実施月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会担当月		○		○		○					○	
青年会議所への理解を深めるセミナー		○										
「地域の困りごと」をテーマにした意見交換会の実施				○								
「地域の困りごと」を解決するための人財マッチング事業の実施						○						
「地域の困りごと」に対する取り組み成果の発表会の実施											○	

2024年度愛郷まちづくり委員会事業計画

～ Take a step ～

委員会名	愛郷まちづくり委員会
担当副理事長	村上 真彦
委員長	鈴木 啓太
副委員長	佐藤 隆介
委員	松本 幸児、渡邊 友香里

1. 委員会方針

委員長所信

近年では、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限は5類感染症に移行し、以前のような制限は緩和され、現在では田村圏内の個人、団体ともに地域をより良くするために尽力しております。私たち田村青年会議所も一体となり、今以上に地域との交流を深める必要があります。

田村青年会議所が一昨年から開催している「たむら愛郷祭」では、田村圏の魅力を掘り起こし、地域の方々や各団体等との交流が深まりました。また、新たなコミュニティーが生まれ、同志たちにも巡り合えました。田村青年会議所だけではできないことを地域一体となり、大きな事業を成し遂げることで、共に成長することができました。今年度も「たむら愛郷祭」を実施の計画であります。より良い事業を築き上げるため、地域の個人や団体との交流事業を実施し、情報や想いの共有をしていきます。

また、昨年より廃線の危機である磐越東線問題に取り組んでおります。依然として、厳しい状況が続いております。私自身、学生時代から利用している磐越東線が廃線問題に陥っていることは田村青年会議所へ入会してから知りました。地域にとっても大切なライフラインの一部でもあり、田村圏には無くてはならないものであると思います。利用促進や新たな気づきを感じて頂けるように、磐越東線の魅力を田村圏内外へ広く発信する運動を行っていきます。

今年度の愛郷まちづくり委員会のスローガンは「Take a step」です。私は、育ててくれた故郷に対して、恩返しがしたいという想いがあり、昨年に田村青年会議所に入会しました。活動を通し、個人では難しいことも仲間や同志と協力して活動することができ、今まで躊躇してしまっていた、一步を踏み出すきっかけになりました。新たな一步、勇気のある一步が未来の田村圏に繋がると思います。更に地域に歩み寄り、多種多様な人財や団体との交流を深めてまいります。どうぞ1年間よろしく申し上げます。

2. 事業計画

【共通】

- 共－1 会員拡大の実行
- 共－2 友好 JC との交流
- 共－3 各種大会・会議等への積極的な参加・推進
- 共－4 OB 会との連携・交流
- 共－5 他 LOM、団体との積極的な交流
- 共－6 地域事業への積極的参加
- 共－7 継続事業の実施

【愛郷まちづくり委員会】

- 1 多様なパートナーシップで築くまちづくり事業の企画・実施
- 2 磐越東線の魅力を田村圏、福島県内外に発信する事業の企画・実施
- 3 防災・減災に係る事業の企画・実施
- 4 例会の設営と運営

3. スケジュール

事業内容/実施 月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会担当			○		○		○		○			
地域交流事業			○				○					
ブロック大会連携 事業			○		○		○					
磐越東線連携 事業									○			

2024 年度総務委員会事業計画

～思案し、行動する組織づくり～

委員会名	総務委員会
担当副理事長	村田 将一
委員長	坂本 龍之
副委員長	舞木 光
委員	武藤 友紀、三浦 聡

1. 委員会方針

委員長所信

私たち青年会議所は「明るい豊かな社会」をつくりだすために運動を展開しています。その運動を展開する中で、私たちは組織としての結束を持ちながら、一人ひとりが地域のリーダーとなるべく修練し、成長を遂げられるよう行動しています。

では、あなたはどのような地域のリーダー像を思い描いているのでしょうか。会員それぞれに青年会議所に入会した理由や目的に違いがあるように、理想のリーダー像にも違いがあるかもしれません。ただ、その核となるものは共通しており、困難に直面してそれを乗り越えるべく行動することを意味する「胆識」が必要不可欠になるはずです。

では、青年会議所に入会するだけで「胆識」は得ることができるのでしょうか。おそらくその場だけを与えられても自ら考え、行動していかなければ「胆識」を得ることはできないはずです。そして、仲間の存在が理想のリーダー像に近づくための道標や支えになるものだと私は思います。

今年度総務委員会は、「思案し、行動する組織づくり」をスローガンに掲げ、会員一人ひとりが青年会議所という舞台でビジョンを持ち、成長を遂げられるような組織づくりを行います。具体的には、全会員が活動に参加してもらえよう働きかけ、信頼を深め、熱い思いを共有し、行動力が高まるような事業に取り組みます。会員一人ひとりの行動と成長を団体の組織力の向上にもつなげたいと考えております。

ここで出会った仲間として手を取り合い、ともに成長していけるようこの1年間、どうぞよろしく願いいたします。

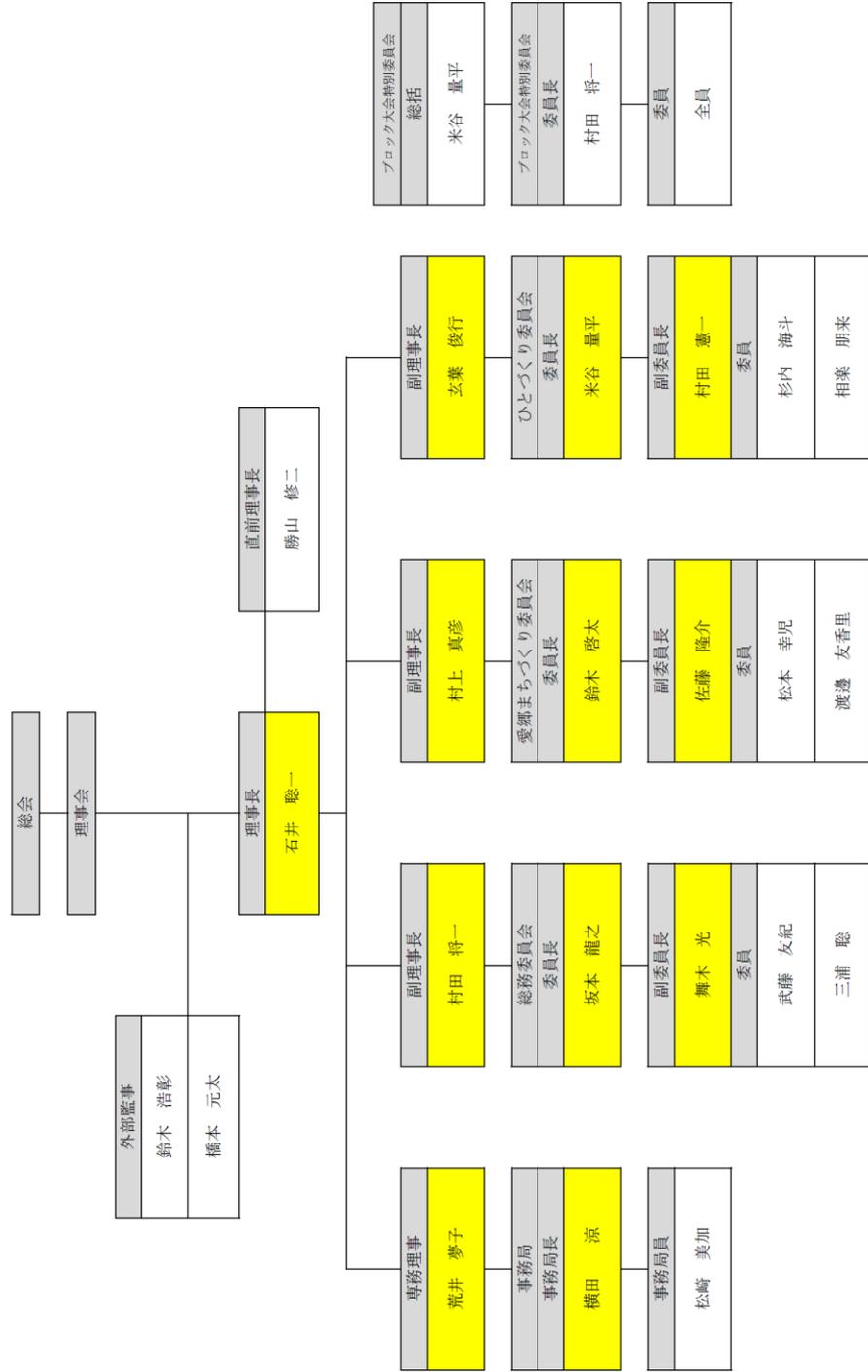
2. 事業計画

<p>【共通】</p> <p>共－1 会員拡大の実行 共－2 友好 JC との交流 共－3 各種大会・会議等への積極的な参加・推進 共－4 OB 会との連携・交流 共－5 他 LOM、団体との積極的な交流 共－6 地域事業への積極的参加 共－7 継続事業の実施</p> <p>【総務委員会】</p> <p>1 胆識を鍛える組織づくりの企画・実施 2 運動推進のための補助金取得の調査・検討 3 例会・総会の設営と運営 4 卒業式の設営と運営</p>

3. スケジュール

事業内容/実施月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
例会担当月	○							○		○		○
通常総会	○							○				
卒業式・家族会												○
胆識を鍛える 組織づくり										○		

一般社団法人田村青年会議所 2024年度組織図



一般社団法人田村青年会議所 2024年度 出向者一覧

福島ブロック協議会	副会長	玄葉 俊行
	組織連携推進会議 委員	横田 涼
	ブロック大会実行委員会 委員長	舞木 光
	ブロック大会実行委員会 総括幹事	米谷 量平
	ブロック大会実行委員会 委員	村田 憲一
	アカデミー委員会 委員	松本 幸児

一般社団法人田村青年会議所 2024年度

会員名簿

	役 職	氏 名		役 職	氏 名
1	理 事 長	石井 聡一	16	委 員	武藤 友紀
2	直前理事長	勝山 修二	17	委 員	三浦 聡
3	副理事長	村田 将一	18	委 員	杉内 海斗
4	副理事長	玄葉 俊行	19	委 員	相楽 朋来
5	副理事長	村上 真彦	20	委 員	松本 幸児
6	専務理事	荒井 夢子	21	委 員	渡邊 友香里
7	理 事	横田 涼			
8	理 事	米谷 量平			
9	理 事	舞木 光			
10	理 事	佐藤 隆介			
11	理 事	村田 憲一			
12	理 事	鈴木 啓太			
13	理 事	坂本 龍之			
14	監事 (外部)	鈴木 浩彰			
15	監事 (外部)	橋本 元太			

一般社団法人田村青年会議所 2024年度

四役員一覽

1	理事長	石井 聡一
2	直前理事長	勝山 修二
3	副理事長	村田 将一
4	副理事長	玄葉 俊行
5	副理事長	村上 真彦
6	専務理事	荒井 夢子
7	理事	横田 涼
8	理事	米谷 量平
9	理事	鈴木 啓太
10	理事	坂本 龍之

一般社団法人田村青年会議所 2024年度
理事一覽

1	理事長	石井 聡一
2	直前理事長	勝山 修二
3	副理事長	村田 将一
4	副理事長	玄葉 俊行
5	副理事長	村上 真彦
6	専務理事	荒井 夢子
7	理事	横田 涼
8	理事	米谷 量平
9	理事	舞木 光
10	理事	佐藤 隆介
11	理事	村田 憲一
12	理事	鈴木 啓太
13	理事	坂本 龍之
14	監事 (外部)	鈴木 浩彰
15	監事 (外部)	橋本 元太

(一社) 田村青年会議所 2024年度 収支予算書

2024年1月1日～2024年12月31日
(単位 円)

	2024年度予算	2023年度決算	差額	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
① 特定資金運用収入	0	0	0	
② 人会金収入	450,000	180,000	270,000	新入会員15名 (¥30,000×15名)
③ 会費収入	4,850,000	2,080,000	2,770,000	
正会員会費	1,700,000	1,900,000	△ 200,000	正会員17名 (¥100,000×17名)
新加入会員会費	0	0	0	
特別会員会費	150,000	180,000	△ 30,000	特別会員5名 (¥30,000×5名)
賛助会員会費	0	0	0	
ブロック大会会費	3,000,000	0	3,000,000	
④ 事業収入	480,000	480,000	0	
事業費繰入	0	0	0	
登録料	0	0	0	
業務受託	0	0	0	
預り金	0	0	0	
雑収入	480,000	480,000	0	三春ロータリークラブ事務受託収入
⑤ 補助金等収入	4,000,000	0	4,000,000	
地方公共団体助成金	0	0	0	
ブロック大会補助金	4,000,000	0	4,000,000	
⑥ 寄付金収入	2,250,000	250,000	2,000,000	
寄付金	250,000	250,000	0	OB会協力金
ブロック大会協賛金	2,000,000	0	2,000,000	
⑦ 雑収入	20,010	9,856	10,154	
受取利息	10	3	7	貯金利息
その他雑収入	20,000	9,853	10,147	JCカード利用手数料等
⑧ 他会計からの繰入金収入	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
基金会計からの繰入金	0	0	0	
事業活動収入計	12,050,010	2,999,856	9,050,154	
2 事業活動支出				
① 事業費支出	9,400,000	390,432	9,009,568	
地域活性化事業	110,000	116,402	△ 6,402	渡郷まちづくり委員会
人材育成事業	110,000	48,032	61,968	ひとづくり委員会
災害支援・復興事業	0	0	0	
研修事業	40,000	14,014	25,986	総務委員会
交流事業	40,000	61,984	△ 21,984	総務委員会 (OB会交流事業等)
会員拡大事業	100,000	0	100,000	ひとづくり委員会
事業会計支出	0	150,000	△ 150,000	社会開発事業等
ブロック大会事業	9,000,000	0	9,000,000	
② 管理費支出	2,081,703	2,063,791	17,912	
会議費	20,000	20,000	0	京都会議登録料, 会員会議所会議
例會運営費	50,000	17,377	32,623	1月・8月通常総会会場費, 年間事業報告会会場費等
給与手当	960,000	960,000	0	¥80,000×12か月
福利厚生費	0	0	0	
旅費交通費	0	0	0	
通信・発送費	160,000	149,546	10,454	通話料, 通信料, 発送費等
インフォメーション関係費	10,000	8,765	1,235	おさいほ
広報費	66,000	66,000	0	新聞広告費 (民報, 民友)
消耗品費	140,000	130,591	9,409	コピー用紙, トナー, 事務用品等
会員支給品費	80,000	50,030	29,970	JCバッジ, ネームプレート, LOMネクタイ等 (会員獲得人数による)
リース料	10,032	10,032	0	コピー機リース料
修繕費	0	0	0	
印刷製本費	15,000	13,610	1,390	年賀状印刷代
光熱水道料費	4,000	0	4,000	灯油代
借借料	277,200	277,200	0	家賃月額¥23,100円×12か月
業務委託費	0	0	0	
記念品費	80,000	75,750	4,250	卒業生記念品 (4名), 花代等
保険料	0	0	0	
租税公課	83,000	82,600	400	印紙, 法人県民税, 法人町民税等
渉外費	90,000	139,902	△ 49,902	慶弔費, 諸会費, 交際費等
雑支出	36,471	62,388	△ 25,917	振込手数料
③ 負担金支出	663,952	554,808	109,144	
国際青年会議所負担金	71,552	56,108	15,444	(13米下ル×172円) × 32名
日本青年会議所負担金	190,000	185,000	5,000	¥5,000×32名+¥30,000 (LOM) 出向者¥20,000×0名
地区協議会負担金	53,000	41,000	12,000	¥1,500×32名+基本金¥5,000 出向者¥10,000×0名
ブロック協議会負担金	195,000	155,000	40,000	¥5,000×32名+¥35,000 (LOM)
国際協力資金	58,400	47,450	10,950	¥1,825×32名
We Believe購読料	96,000	70,250	25,750	¥3,000×17名+新入会員15名
④ 他会計への繰入金支出	0	0	0	
一般会計からの繰入金	0	0	0	
基金会計への繰入金	0	0	0	
事業活動支出計	12,145,655	3,009,031	9,136,624	
事業活動収支差額	-95,645	-9,175	△ 86,470	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入	0	0	0	
2 投資活動支出	0	0	0	
① 特定資産取得支出	0	0	0	
退職給付引当資産取得	0	0	0	
② 固定資産取得支出	0	0	0	
什器備品取得	0	0	0	
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 財政活動収支の部				
1 財務活動収入	0	0	0	
2 財務活動支出	0	0	0	
当期収支差額	-95,645	-9,175	△ 86,470	
前期繰越収支差額	95,645	104,820	△ 9,175	
次期繰越収支差額	0	95,645	△ 95,645	